

様式1

令和2年度 学校評価表

学校教育目標	凜とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成 ～自己肯定感の向上～		
a ミッション	主体性を育み人間力を高める教育活動の実践	a ビジョン	職員が笑顔で生徒の前に立てる学校

尾道市長江中学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					達成値	達成値				イ	ロ	ハ		
凜とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成	主体性を育む教育実践	○学習内容の確実な定着～知的好奇心を喚起する授業実践～	<ul style="list-style-type: none"> 各教員、年1回以上の研究授業実施 各教科1単元以上の単元開発（更新） 	①生徒アンケートの「授業では解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と『やってみよう』と肯定的に回答している生徒の割合（昨年度64.8%） ②英語能力判定テストにおける当該学年英検レベル到達生徒の割合（昨年度：3級（3年）67.1%、4級（2年）74.7%）	① 70%	① 81%	② 未実施	114%	A	○日頃の授業改善に重点を置き、指導案を簡略化した研究授業を推進した。1学期、既に6名（丸山、内堀、甲田、藤本、石原）が研究授業を実施した。 その成果として、目指す授業イメージを教員間で共有できたことが挙げられる。一方、参観者から授業者へのフィードバックはまだ不十分であることが課題として挙げられる。 ○生徒アンケート「授業では解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と『やってみよう』と肯定的に回答している生徒の割合（昨年度64.8%）」	3	○生徒アンケートにおいて、「授業で『なぜだろう』『やってみよう』と81%の生徒が肯定的に回答していることにより、「主体性を育む教育」が実践されていると感じた。 ○先生方の中で、生徒の実態を共通理解し、指導していることがよく分かった。 ○コロナ禍の中において、①家庭状況により、学力格差が開きやすくなること、②臨時休業に伴う未履修事項の実施、③ZOOM等、オンライン授業等の準備が必要になること、等の課題が考えられる。	○研究授業後の反省会を充実させるために、①感想シートの活用、②「本時の『見どころ』」の指導案への明示により、指導の工夫点を参観者と共有することで、授業者へのフィードバックを充実させる。 ○各学年で、生徒実態を踏まえて、生徒のキャリア発達を意識した総合的な学習の時間の計画となるよう直しや再立案を行い、確実に実施する。 ○「G Suite」や生徒に配付されるタブレットの効果的な活用に向けて、教職員の研修を実施する。	
	人間力を高める教育実践（含：自己肯定感の向上）	○元気のよい挨拶が飛び交う教育環境の創造	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に企画する挨拶運動等への支援 生徒の主体的な活動に対する教師による肯定的評価の実施 	①生徒アンケートの「自ら進んで挨拶をしている」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（今年度新規） ②教師アンケートの「自分は、生徒が自ら進んで挨拶をするよう、指導している」旨の問いに肯定的に回答している教師の割合（今年度新規） ③生徒アンケートの「自分には良いところがある」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（昨年度66%）	① 90% ② 95% ③ 80%	① 84% ② 100% ③ 81%		100%	A	○挨拶をすることへの肯定的評価、そして授業や日常生活における積極的な声かけにより、元気に挨拶できる生徒、自分から爽やかに発言する生徒が増えている。 ○生徒会による、コロナ感染症対策「新しい生活様式」や「褒め言葉のシャワーキャンペーン」「部活動紹介掲示」等、生徒の主体的な活動が積極的に行われた。また、生徒総会の取組においても、執行部の熱意が全体に伝わり、よりよい学校生活づくりに向けて、本気になって議論する姿が見られた。 ○学年・生指担当・SC・SSW等、様々な連携の中で、生徒の実態を共通理解して指導に臨むことができた。報告・連絡・相談も細やかに行えた。	3	○コロナ禍の中において、生徒の社会性を育む様々な行事が中止となり、目標を見失う生徒も多くなることが懸念される。きめ細やかなケアを施す必要がある。 ○長期休業等、生徒にとってまとまった時間がある際には、読書に積極的に取り組ませることは、発達性の観点からも、情操を育てる上で有効であると考えている。	○挨拶・返事・反応ができる生徒を育てるために、授業・部活動・生徒会活動・来校者への対応等、あらゆる場面であいさつを励行する。また、挨拶ができることを評価するとともに挨拶できなかったらその場で指導する。 ○コミュニケーションを円滑にできる生徒を育てるために、自分の気持ちを適切に表現したり他者の気持ちを考えた言動を行ったりする授業を設定する。 ○集団作りを推進する上で、次のことに特に留意し、学校全体で話し合い活動を設定及びリーダーシップの育成を図る。 ①班長会等、各リーダー会で集団の課題を話し合い、目標設定させる。 ②活動中の集団への声かけ等リーダーとしての動きを支援する。 ③まとめで振り返りを成果と課題の両面で行い、次へつながる発言ができるよう指導する。	
	職員が笑顔で生徒の前に立てる職場環境	○働き方改革の実践	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の精選 	①月あたりの時間外勤務時間が80時間超の人数の割合（昨年度35.9%） ②月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の人数（昨年度1名：事務主幹）	① 25%未満（4～12月平均） ② 2名以上（4～12月平均）	① 0% ② 6名		100%	A	コロナウイルス感染症拡大による臨時休校やその対策で、今までに経験したことがない業務、判断に迫られる日々が続いた。 その中で、今までの業務の見直しを積極的に行い、「P T A行事の縮小」「部活動朝練習の廃止」等、働き方改革を具体的に実践した。 教職員の「働き方アンケート（本市が6月に実施）」における「慣例にとられない新しいアイデアの導入」や「スクラップ&ビルド」の項目では、90%以上の肯定的回答が得られた。	3	○育友会活動が活発であることが、教職員の負担になるようでは、本末転倒である。子ども達の成長のために学校を支える育友会活動の在り方を検討する必要がある。 ○引き続き、学校の様々な取組を見直し、積極的にスクラップ&ビルドを行うことにより、教職員が元気に子ども達の前に立てる環境づくりを進めていく必要がある。	○今後も継続して育友会と連携し、事業の見直し及び改善を行う。 ○熟議を通じ、目標達成のために定めた取組を焦点化し、実践を組織的に進める。また、各取組のチーフを明示し、責任をもった業務遂行並びにチームによる協働を促す。 ○時間外勤務時間については、毎月「見える化」し、各自の「働き方」に係る主体的な意識変革を促進する。	

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。

方策進行管理シート

短期経営目標	目標達成のための方策	活動	7月	1月	活動達成度	方策達成度	取組評価
			目標数	目標数			
			達成数	達成数			
○学習内容の確実な定着 ～知的好奇心を換気する授業実践～	<ul style="list-style-type: none"> 各教員，年1回以上の授業研究実施 各教科1単元以上の単元開発（更新） 	①各教員1回以上の授業研究を実施する。 ②知的好奇心を換気させるような「課題発見・解決学習」の単元開発（更新）する。	目標6名 ①5名	①80%	83%	83%	○研究授業後の反省会を充実させるために、①感想シートの活用、②「本時の『見どころ』」の指導案への明示により、指導の工夫点を参観者と共有することで、授業者へのフィードバックを充実させる。
			目標6名 ②5名	②80%	83%	83%	
○元気のよい挨拶が 飛び交う教育環境の創造	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に企画する挨拶運動等への支援 生徒の主体的な活動に対する教師による肯定的評価の実施 	①挨拶運動等を，生徒会執行部・専門部を核として，主体的に企画させる。 ②行事の際はもちろんのこと，日常生活においても，生徒の主体的な活動に対して肯定的評価を行う。	①1回以上企画 ② 1回	①3回以上企画	100%	100%	○授業・部活動・生徒会活動・来校者への対応等，あらゆる場面であいさつを励行する。また，挨拶ができることを評価するとともに挨拶できなかったらその場で指導する。 ○集団作りを推進する上で，次のことに特に留意し，学校全体で話し合い活動を設定及びリーダーシップの育成を図る。 ①班長会等，各リーダー会で集団の課題を話し合い，目標設定させる。 ②活動中の集団への声かけ等リーダーとしての動きを支援する。 ③まとめと振り返りを成果と課題の両面で行い，次へつながる発言ができるよう指導する。
			②職員全員が実施 目標 95% ② 100%	②職員全員が実施	100%	100%	
○働き方改革の実践	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の精選 	①特にPTA行事について，精選を行う。	PTC球技大会の廃止	各種説明会の同日開催	100%	100%	○熟議を通じ，目標達成のために定めた取組を焦点化し，実践を組織的に進める。また，各取組のチームを明示し，責任をもった業務遂行並びにチームによる協働を促す。